

陰陽と循環のなかを。

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2743号
(2011年5月4日発行)より

自分自身は、ちょっとおおきな気持ちの揺れを感じているときに、古い友人から電話がきました。

長年未解決だった問題が、解決しそうだという電話でした。おどろきました。その問題は、前から聴いていて、もう解決することはないのかなと、思っていたことだからです。

なんだか奇跡のように感じて、自分のことではないのに、思わず、涙がにじみました。

こんなことがあると、いつも思います。つくづく、世界は、陰陽と循環でできているんだなと。

光があれば、闇がある。それは、いつも移り変わり、たまたま光のなかに行ったり、たまたま闇のなかに行ったりするだけ。ただそれだけのこと。

そして、光のように見えたものは、あるときには、闇に切り替わり、闇のように見えていたものが、いつか、光に切り替わる。この世は、そんなふうにできていて、たまたま、いま、ここにいて、それを体験しているだけ。たまたま、よろこんだり、かなしんだりしているだけ。

永遠につづくものなど何もなく、いつか必ず、移り変わる。それがときには、一生つづくものだとしても、宇宙の時間のなかでは、またたきにも満たない時間。

いま、私が闇を抱きしめているとすれば、誰かがきっと光のなかにいる。

いま、私が光に包まれているとすれば、誰かがきっと闇の底にいる。

そのどちらに、いい・悪いをつけたところではじまらない。ひとをうらやんだり、自分を卑下したところで、何も生み出せない。

できることは、あたえられたいのちを、受け取って、ただ、生きていくことだけ。つかのまの地球の時間を、感謝して、楽しむだけ。…ときには、楽しいなんて思えないことも含めて、ね。

だから、私も、生きて、体験できることを楽しもう。生きているからこそ、味わえる感情を味わおう。あらためてそう思いました。

そう。いま、苦しみやかなしみのように感じていることさえ、いつかちがった景色に見えてくるのだろうから。

いつでも、見えない誰かが、誰かのかなしみや痛みを、受け止めてくれているのだから。

この宇宙の循環のなかを、生きる自分を楽しもう。生きる自分をいつくしもう。そう思って、静かに手をあわせました。なんだか、祈らずにはいられない気持ちになったのです。

あるものがあるように。なるものがあるように。ただ、天のことわりを信頼して。生きようと思います。陰陽と循環のなかを。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2011年3月**、**2700号**達成。3秒読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>